

赤米ニュース

第301号

(2022年4月30日)



東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

4月の赤米作り-----	2
おしらせ-----	5
『赤米ニュース』第300号記念報告：赤米の利活用（Ⅱ）-----	7
表紙解説：国分寺市の年中行事④—国分寺の万葉花祭り—-----	8

[2022年版赤米栽培マニュアル]

4月の赤米作り

●今年もいよいよ赤米作りが始まります

皆さん、お元気ですか？。ようやく4月になり、新学期・新年度が始まって、いよいよ春爛漫の季節を迎えることとなりました。赤米作りも、また始まります。皆さん、準備はよろしいですか？。今年もおおいに張り切って頑張り、たくさんの収穫をあげましょう！。

とはいうものの、実はまだそうあわてることもありません。すっかり赤米のことを忘れてしまっておられた方々も、まだまだ間に合いますし、4月の赤米作りの作業は、まだほんの準備段階に過ぎないので、まったく大したことはありません。なかなかエンジンのかからない方々は、ぼちぼちその気になってもらい、ゆっくり作業に取り掛かっていただければ結構です。あせらずに気長にやってみましょう。最初の作業は、本当に簡単な準備仕事だけで、まったく簡単なことですから、あまり面倒臭く思わないで下さい。

●赤米栽培マニュアルについて

皆さんにはこれから半年間、例によって本誌誌上において毎月、「2022年版赤米栽培マニュアル」をお届けしますので、毎月の作業の参考にさせていただきたいと思います。去年のやり方の通りに繰り返してみても結構ですので、もう一度思い出しながら、やってみて下さい。また、昨年度の失敗経験や反省・教訓を活かしながら、いろいろな応用をためてみることも大切です。

ここでの栽培マニュアルに必ずしもこだわり続けることなく、皆さんご自身でおおいに

創意工夫をくわえ、どんどん新しいころみにもチャレンジしていただきたいと思います。また、その成果をぜひ本会まで、どんどん報告していただきたいとも思っています。試行錯誤もまた、得がたい貴重な経験ですので、反省や教訓を積極的に取り入れて、マニュアルをどんどん改訂し、よりよいものに作り変えていきましょう。よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

さて、いつものごとく、あらかじめお断りしておくことにしますが、これからここで述べていく赤米栽培法の基本手順は、都市部の集合住宅に住む非農家の一般市民が、あくまでもひとつの趣味として赤米栽培をおこなうために用意されたものです。それは、本格的な水田圃場を用いてなされるものではなく、その代替手段としての、いわゆる「バケツ栽培」もしくは「プランター栽培」のやり方です。いわばそれは、「都市型小規模稲作栽培」のための技術テキストといってもよいことでしょう。したがって、中～大規模に本格的な水田栽培をころみられる方々は、ここでのマニュアルを、その基本事項のみ参考にしていただいて、それ以外のくわしい専門的な問題は、ぜひ稲作りのプロフェッショナルである農家の方々におたずね下さい。私たちはいつも、そのようにおすすめしています。

そして、私たちの育てようとしている赤米稲は、ほとんど品種改良ということがなされていない、いわゆる「古代稲」ですので、野生植物に近い生態的特徴を持っており、人工的な育成環境に高度に適応した現代の稲の育て方に関する経験や知識が、あまりあてはまらない面もあります。通常の稲と同じように育てたために、逆に失敗するというケースもありますので、その点もぜひ、ご注意願いた

いと思っております。

●バケツの準備

では、さっそく4月の農作業について述べていくことにしましょう。種まきの準備などの、具体的な作業は5月から始まりますので、4月についてはとりあえず、土の準備ということのみに、とどめておくことに致しましょう。

まずは赤米稲の栽培用の容器（バケツもしくはプランター）を準備しますが(写真1・2)、いわばそれは「ミニ田んぼ」です。容器には土と水を入れますが、その際に用いる容器は何でもかまいません。廃品のポリバケツでも、園芸用のプランターでもよいですし、水槽・タライ・ベビーバスなどでも応用できます。水が漏れず、土を深く入れることができれば、何でもよいのです。

ポリバケツは水漏れもなく、土を深く入れることができるうえに、移動もさせやすいので、もっとも適した容器といえますが、あまり多くの苗を植えることができない点が短所でもあります。一方、発泡スチロール製の「トロ箱」は、形が四角形なので無駄なく苗を植えることができ、場所も食わずにいくつも並べることができる点がすぐれています。



写真1 バケツ栽培



写真2 プランター栽培

断熱効果も高く、夏場に水が高温になり過ぎるのを防ぐこともできます。魚屋さんやスーパーなどに行けば、いくらでもタダで分けられますので、入手も楽です。園芸用のプランターを用いる場合、底に簀の子のあるタイプと、ないタイプとがありますが、なくて結構です。簀の子付きのものの場合、それはずして使って下さい。横についている排水孔は不要なので、ふさいでしましましょう。

わざわざ容器を買ってこなくても、いらなくなった廃品を再利用すれば十分です。何の容器でも使えますので、物置の中に眠っている無用の長物を探してみましょう。なお、バケツ利用の利点は、そのポータブルさにもあります。台風などで暴風雨が予想される時などは、バケツごとそっくりそれを屋内に避難させることができます。そのためにも、できれば移動できる大きさと重さの容器を選ぶとよいでしょう。あまり大きな容器を用いますと、重くて運べなくなりますので、気をつけましょう。

●土の準備

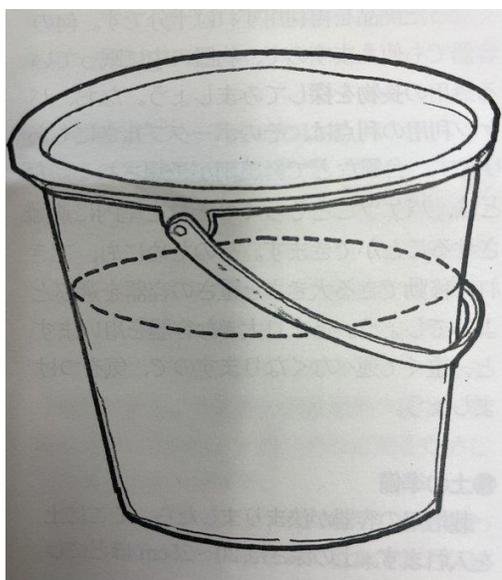
栽培用の容器が決まりましたら、そこに土を入れます。土の深さは20～25cmほどにし

ますが、あまり浅すぎないように注意をし、最低でも15cmは入れて下さい。初心者の失敗の原因を探ってみると、土が浅すぎたという例がもっとも多く、稲が根をしっかりと張ることができないために、苗がよく育たないケースがほとんどです。ぜひ、気をつけるようにしましょう。ポリバケツを用いる場合の土の入れ方は、図1のようにするとよいでしょう。

土は野外で採取してくればよいのですが、農家に頼んで水田や畑の土を少量いただくのがベストです。山土よりは低地の泥質の土の方が、乾燥しにくいので適していますが、どんな土でも稲を作れないということはありません。まったく土のない市街地におすまいの方々は、園芸店やホームセンターなどについて、袋入りの土を買ってきて下さい。

図1 バケツ栽培の土の入れ方

(点線の部分まで土を入れる。3分の2までの深さにするのが望ましい)



それほど高いものではありません。ついでに肥料も買ってきてもよいでしょう。

肥料は堆肥がもっとも適していますし、有機栽培をこころみることができます。堆肥も園芸店で売っています。堆肥・鶏糞・骨粉などを混合した固形肥料も、非常に効果的です。もちろん化学肥料を使用してもかまいませんし、特に有機栽培ということにこだわらない方々は、おおいにそれを用いるべきでしょう。とはいえ、肥料は必ず与えなければならないというものでもなく、まったくの無施肥でも赤米は結構よく育ちます。逆に、肥料をやりすぎたために失敗するということがよくあるのです。

肥料は必ずしも必要不可欠なものではありませんが、米の収穫量をあげるためにはやはり必要です。肥料を与える場合、容器の底の方に少量入れ、上に土をかぶせていき、肥料と肥料分のない土とが混じり合わないようにはします。要するに、苗の根が直接、肥料に触れることのないように心がけ、ジワジワと肥料分が土中にしみ出して、間接的に効いていくようにしてやるとよいのです。

次に容器に水を張りますが、ホースやジョウロなどで、そっと少しずつ水を満たしていき、土をかき回さないようにします。また、地表面を平らにならし、水位と地表面とが一致するようにします。地表面が完全に水没するようでは、水が多すぎます。ガブガブに水を入れず、「湿った畑」の状態にするのがコツです。その後、水が多少乾いてもかまいませんが、つねに土に一定の湿り気が、たもたれるように配慮します。このようにして土と水とを、よくなじませておきます。この作業は、種まきの直前にやるのではなく、ぜひ4月中に済ませておきましょう。一定の期間を置いて

た方がよく、特に肥料を与える場合、肥料と土とを時間をかけてなじませておくことよいです。

昨年度に赤米を栽培したバケツをお持ちの方々は、昨秋の稲刈り以来、根株がそのままの状態になっていることと思いますが、取り除いた方がよいです。春のうちに一度シャベルで土をよく掘り起こして耕し、十分に空気を土中に入れて、土塊を細かく砕いておくことも必要です。農家でいえば、これは春の荒起こしにあたります。

さあ、4月中の作業はここまでです。次回は、種まきについて解説しましょう。赤米作りの準備のできたバケツは、よく日の当たる所に出しておいて下さい。2ヶ月後には、そこに青々とした早苗が並ぶことになります。楽しみですね。それでは5月にまた、お目にかかりましょう。

おしらせ

●赤米会が今年もいよいよ始動！

東京都国分寺市内で赤米作りを続けている国分寺赤米会（龍神瑞穂会長）では、いよいよ今年活動をスタートさせました。まずは仕事始めとして、武蔵国分寺跡の赤米畑の耕起作業に着手し、3月4日（金）にそれが実施されました。会員たちは朝から畑に集まり、久々の再会を果しました。地元農家の協力者、小坂良夫さんがトラクターを運転され、小気味よく畑の土を反転させていきます。昨年収穫時に残された稲株も、きれいに土の中にすきこまれていきました。赤米会ではこの日、恒例の土壌調査もおこないましたが、pH 値の安定化をめざし、今回も新たに硫黄

60 kgを畑に投入して、土壌改良につとめています。5月にはこの畑で、また小学生たちが種まき作業をしてくれることになっており、大変楽しみです。

●赤米ビールが新聞報道されました！

武蔵国分寺種赤米を原料に用いた赤米ビールの商品化に取り組んでいる、東京都国分寺市の国分寺赤米プロジェクト（坂本浩史郎代表）と胡桃堂喫茶店（東京都国分寺市本町2-17-3）の活動が、このたび新聞報道されました。掲載紙は、『読売新聞』の3月3日号朝刊多摩版です。参考までに、次頁に記事を転載しておきます。

なお、この赤米ビール「あけに恋して」は、300ml 瓶での販売をおこなっており、胡桃堂喫茶店では2月4日から店でも出していて、国立市内の「せきや」でも店頭販売しております。今後は、国分寺市内の「カフェ・スロー」や「カフェ・ローカル」などでもメニューに加えていく予定だそうです。ぜひ、ご賞味願いたいと思います。

●国立市で赤米ビールの売り上げ好調！

東京都国立市の JR 中央線国立駅南口駅前にある酒販店、「せきや（国立市中 1-9-30 せきやビル1階）」では、この2月から赤米ビール「あけに恋して」の店頭販売を開始しましたが、その売れ行きはきわめて好調です。3月3日版『読売新聞』の報道による宣伝効果はまことに絶大で、多くの国立市民が「せきや」にやってきて赤米ビールを買い求めた結果、3月初旬には早くも瓶詰・ラベル付きのボトルが完売となってしまいました。「新聞記事を見て、わざわざ買いに来たのに売り切れだなんて…」という市民に対して、店員は頭

赤米

酒類

(加工種別産物証明)

国分寺の団体・国立の醸造所 開発



赤米を原料に使ったクラフトビール「あけ」に酔って」（国分寺市の胡底堂喫茶店で）

古代米ビール

酔ってらっしやい

国分寺市で発見された古代米の一種「武蔵国分寺種赤米」の普及に取り組み市民らの団体が、赤米を原料に使ったクラフトビールを、隣町の国立市の醸造所と共同開発し、まろやかな口当たりとさわやかな香りが特徴の一杯。地域の農業の歴史を伝える新たな味として、今後も醸造を続けていく。
(編者 堀見太郎)

「赤米文化 広げたい」



収穫された赤米（国分寺赤米プロジェクト提供）

完成したクラフトビールは「あけ」だ。あけは「あけ」の読み方の一つ、そして胡底堂が、爽やかな秋に向けて育つ稲の姿に着想を得て名付けた。国分寺市本町の飲食店「胡底堂喫茶店」や、JR国立駅近くの酒店「せきや」で提供している。提供は在庫がなくなり次第終了となる。赤米は縄文時代に外国から日本に伝わり、江戸時代までは食卓に並んでいた。栄養豊富な一方で、白米よりもうま味が劣り、稲も倒れやすくて栽培に手間がかかるため、明治時代以降は

ほぼ姿を消した。国分寺市では、1997年に畑で赤米の穂もみが見つかり、一部の農家が保存を目指して栽培に取り組んできた。2018年には、赤米の普及を進めようと、市民らが中心となって「国分寺赤米プロジェクト」を立ち上げた。畑や水田で農業や肥料を使わない「自然栽培」として赤米を栽培。白米と一緒に炊いて赤飯のように仕上げる。「赤米、ほん」を市内の飲食店で提供したり、菓子店と共同であられや焼き菓子の製造をしたりして名物の開発を行ってきた。今回のクラフトビール造りも、その一環だ。当初は日本酒を検討したが、原料のコメの規格が厳しいことや、国立市の醸造所「クニタチアルバー」が開発に協力してくれたこともあり、ビール造りに方針転換した。醸造でこだわったのは赤米の配分量。ビールは麦芽とホップに加え、副原料としてコメも使われる。醸造所で昨年造った別のビールは、麦芽約9割に対し、コメの割合は約1割だった。が、今回の「あけ」に酔っては、赤米の配分をその3倍

以上の割合にした。そして、麦の風味をほとんどなくしつつ、コメのまろやかなさわやかな香りを感じられる、絶妙なバランスに仕上がった。醸造長の新設亮さん(46)は「古来の作物の味わいに加え、赤米への思いも表現できた」と語る。ビールそのものに赤色を引き出せるよう、原料のバランスの研究を今後重ねていくという。赤米プロジェクトが手がける畑や水田は、国分寺市内などに3か所計約2500平方メートル。倒れやすい稲を麻ひもで固定するなど作業の手間もかかり、昨年の収穫量は種もみで約340トン。ほとんどは、それでも、プロジェクトリーダーの坂本浩史朗さん(56)は「大量生産はできないが、ビールを含め様々な製品を多くの人に楽しんでもらいたい」と赤米文化を広げたいと意気込みでいる。

花見に一杯！これが赤米ビールです。



を下げっぱなしでした。何ぶんにも原料の赤米の供給量が限られていて、通年的な醸造・出荷態勢を維持するには、まだまだ量が足りないとのことです。「秋になれば今年の新しい赤米が収穫できるので、次のビールをまた仕込みます。その頃になったら、また売り出しますので、しばらくお待ち下さい」と店員も言っていました。

そういうわけで、瓶詰め赤米ビールはもう売り切れてしまったのですが、計り売りのビールはまだ少し残っています。持ち帰り用の500mlペットボトルが店頭で用意されていますので、直接それに詰めてもらえばよいのです。価格は1300円で、ペットボトル代100円が上乗せされます。少々高いですが、それだけの価値のあるおいしいビールです。どっしりとしたコクのあるストロング・タイプで、きちんと米の味のする赤米ビールを、皆さん

もぜひ一度おためし下さい。

『赤米ニュース』第300号記念報告

赤米の利活用(Ⅱ)

長沢 利明

(2) 公共施設での展示栽培・つづき

東京都内を例に取れば、その先駆けとなったのは、国分寺市の民俗資料室であったと思われませんが、当時その学芸員として働いておられ、武蔵国分寺種赤米稲の発見者でもあった大嶋一人さんが1997年頃から、一人で細々と赤米稲の展示栽培をやっておられました。その頃、国分寺市教育委員会の倉庫には、市内の遺跡を発掘する時に用いるプラスチック製の大型コンテナが大量に保管されていたのですが、不要となったその廃品を大嶋さんはいくつかもらってきて土と水を入れ、資料室の玄関先にずらりと並べて種子をまき、武蔵国分寺種赤米稲をそこで育てつつ、誰でも自由にそれを見学できるようにしておられたのです。

民俗資料室は目立たない場所にあるうえ、ほとんど何のPRもなされなかったため、赤米稲の栽培展示があまり注目されることがなかったのは残念でしたが、それでもそこを通りかかった市民らの目につき、人の背丈ほどにまで伸びた「お化け稲」のごとくの野性的な姿の赤米稲に、みな驚いていました。国分寺市内ではその後、武蔵国分寺跡資料館や恋ヶ窪公民館などでも、赤米稲の栽培展示がなされるようになりました。

そのほか東京都内では、板橋区の赤塚植物園、北区の赤羽自然観察公園、八王子市の郷土資料館、国立市のくにたち郷土文化館、武



写真3 赤米・黒米稲4種の展示栽培（東京都武蔵村山市の武蔵村山市立郷土資料館）



写真4 都立野山六道山公園の赤米水田（東京都武蔵村山市）

蔵村山市の歴史民俗資料館（写真3）、都立野山六道山公園などでも2000年前後から赤米稲の栽培展示がスタートし、一般にも広くそれが公開されるようになりましたが、いずれも東京赤米研究会から種子が提供されています。都立野山六道山公園の赤米栽培はとりわけ大規模なもので広い谷間の休耕田を大々的に整備し、見事な復活水田が造成されて、何種類もの赤米・黒米などの珍しい稲がそこに植えられ、実に見事な田園景観の創出・再生に成功しました（写真4）。小学生らによる田植え・稲刈りイベントなどもそこで毎年おこなわれ、体験学習面でも多大な成果をあげております。

東京赤米研究会からはその後も、各地の社

会教育施設などへの赤米種子の提供が続けられており、栃木県の小山市立博物館、神奈川県厚木市の郷土資料館、山梨県山梨市の万力公園などでも赤米稲が育てられるようになりました。山梨県の万力公園の場合、公園内に「万葉の森」という植物園があり、14 haに及ぶ広大な園内に計110余種の万葉植物が植栽され、26首の万葉集歌を刻んだ27基の歌碑が建てられているのですが、そこに赤米稲も植えられることになりました。水浸プランター栽培ではなく、露地での陸稲栽培の形で赤米稲が植栽されたのは、ユニークなところみといえるでしょう。

万葉植物園といえば、奈良県の春日大社のそれが大変有名で、そこでも赤米稲が育てられておりますけれども、考えてみれば稲もまた立派な万葉植物のひとつなのですし、『万葉集』には稲を詠んだ歌が26首も収録されています [国分寺市教育委員会（編），1992:p.15]。東京都国分寺市の万葉植物園にも、万葉植物としての稲が植えられていますけれども、ただの通常稲がポット栽培されているだけで、せっかく「武蔵国分寺種」赤米稲のふるさどにある植物園だというのに、あまりにそれは残念なことといえるのではないのでしょうか。

（つづく）

[表紙解説] 国分寺市の年中行事④—万葉花祭り—

桜が満開になった4月上旬頃、西元町の武蔵国分寺跡の周辺では「万葉花祭り」がおこなわれる。山門には色とりどりの紙旗が飾られて、植木市もそこに立つ。武蔵国分寺の金堂跡では、野外コンサートなどのイベントも盛大に開催され、桜見物におとずれた市民らを喜ばせていたのだが、諸般の理由から市主催のイベントが2020年を最後に休止となってしまったのは、残念である。